

## 40 イナバマメタニシ

(エゾマメタニシ科)

兵庫県ランク:B

*Bithynia inabai*

環境省ランク:VU

### 種の概要

兵庫県南部と岡山県東部に分布する。一時、横浜市でも確認されたが、移入による一時的な記録であったと考えられる。殻長8mm前後で、螺管はよく膨らみ縫合は深い。半透明な黄褐色の殻をもち、表面に付着物が付いていない個体では、生時に茶褐色のまだら模様 of 軟体が透視できる。蓋は石灰質である。水田や水田周辺の水路、湿地、小規模なため池に生息する。水田や周辺水路という同じ環境に生息する近似種 of ヒメマルマメタニシ (貝類Cランク) と混生する場所は確認できていない。

### 主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○			△				○

### 県内分布

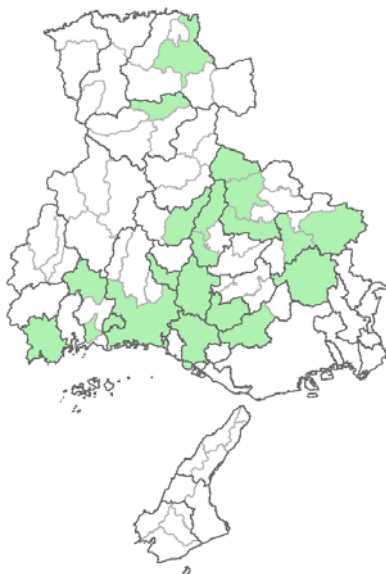
三田市、加古川市、三木市、小野市、加西市、多可町、姫路市、神河町、福崎町、たつの市、赤穂市、太子町、豊岡市、養父市、篠山市、丹波市

### 県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。神戸市垂水区櫛谷が模式産地。県内では瀬戸内海斜面から丹波篠山地方、但馬の豊岡市などの水田周辺に広く分布する。しかし、年々、水田が畑地や麦畑に利用されたり、稲刈り後に田起こしされ、初夏まで著しく乾燥させるなどの理由で、マルタニシ (貝類Cランク) と同様に減少傾向にある。

### 保護上の留意点

稲の刈り取り後は初夏の代掻きまで耕耘をせず、湿潤環境を維持することで、冬眠期を安全に確保でき、最大の減少要因を軽減できる。ただし、水田という耕作地に依存している以上、耕作方法は農業者の都合であることから、保護や保全の方策がとれないのが現実である。



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修